

令和3年度  
第1回留萌市公共施設整備検討会議  
議事概要

- 日 時／令和3年7月14日（水）18:00～20:00
- 場 所／留萌市役所3階 3・4号会議室
- 出席者／委 員 炭谷座長、向井副座長、大石委員、村上委員、西埜委員、笠井委員、  
小沼委員、神部委員、坂本委員、堀口委員、高橋委員、大和委員、  
遠藤委員、伊端委員、大館委員、串橋委員、谷委員、田村委員※順不同
- オブザーバー 留萌振興局：榎波部長、市教育委員会：伯谷課長、峨家係長
- 事務局 海野課長、菊池係長、高橋主任
- 運営支援 (株)ドーコン 佐竹、佐藤（WEB参加）

1. 開会

2. 座長挨拶

- －炭谷座長よりあいさつ。

3. 資料説明

(1) 令和3年度検討会議の進め方について（案）【資料1】

- －事務局より、令和3年度検討会議の進め方について（案）【資料1】について説明。

- －質疑・意見確認

（〇〇委員）

- ・今年の進め方については、あとで確認できるのか。

（炭谷座長）

- ・後程、協議事項で協議する。

(2) 留萌市公共施設講演会のアンケートの主な意見【資料2】

- －事務局より、留萌市公共施設講演会のアンケートの主な意見【資料2】について説明。

- －質疑・意見確認

- －特になし。

### (3) 留萌市スポーツセンター等の現状と課題【資料3】

ー伯谷生涯学習課長（オブザーバー）より、留萌市スポーツセンター等の現状と課題【資料3】について説明。

ー質疑・意見確認

（〇〇委員）

・月別の利用実績は計算していないのか。

（伯谷生涯学習課長（オブザーバー））

・今回資料では提示していないが、作成することは可能である。

（〇〇委員）

・施設毎に利用者が異なることで特色があるのではないかと。月別の利用者が分かることで検討の材料になると思う。

（〇〇委員）

・各公共施設の収入はどの程度なのか確認したい。

（伯谷生涯学習課長（オブザーバー））

・中央公民館が約 611 万円、文化センターが約 423 万円、スポーツセンターが約 392 万円、勤労者体育センターが約 15 万円となっている。

（〇〇委員）

・各施設について、2014 年からの利用状況の取りまとめ状況を見ると、利用実績はあまり減っておらず横ばい傾向である。人口が減少している中で、利用者数が大幅な減少になっていないということは、人口に対する利用率は高いのではないかと。

（〇〇委員）

・ここ数年はバレーボール部の利用回数が多くなっている。開館当時は大会利用やサーカス等イベント利用が非常に多かった。その後、利用者は減少しているものの、スポーツ教室の開催等、様々な自助努力行ってきた。利用者数は平成 22 年度がピークとなっており、人口規模に対して利用率は高い水準となっている。しかし、利用者数は多いものの無料利用が可能な幼稚園、小学校の利用回数が多いため、収入には結びついていない。全道規模の大会の開催会場になるわけではないため、人口規模にあった施設を作っていく必要がある。

#### 4. 協議事項

##### (1) 令和3年度検討会議の進め方について

###### －質疑・意見確認

(〇〇委員)

- ・公共施設の立地について、現時点では駅前地区を候補地とするが、有効意見が出た場合、再検討すると記載されている。全委員でこの考え方が共有できているのか再確認したい。

(炭谷座長)

- ・前回の検討会議にて、駅前周辺地区を候補地として検討を進めるとの方向性が固まった。候補地を何か所か出したうえで、メリットデメリットについても話し合いを行った。しかし、市民アンケート等で有効な提案が出てきた場合には再検討を実施する。方向性としては、駅前中心地区で議論を進めていきたいと考えている。

(〇〇委員)

- ・様々な意見の中で、街の真ん中を決めていきたい。点で考えるのではなくゾーンでもいいのではないかと。無料で手に入る広い場所だから、駅前周辺への立地を検討しているのは理解できる。JRの廃線後に駅跡地活用を進めていくことに異論はない。しかし、公共施設の移転先としては、駅前周辺、合同庁舎周辺、留萌プラザの跡地など数か所が考えられるのではないかと。また、モンベルの誘致の話も聞いている。また、そもそも公共施設を移転させることで賑わいが本当に生まれるのか。公共施設の検討の前に、市役所を建てるべきではないのか、という話もある。市役所周辺には人流ができる可能性もある。論点としては、駅跡地の利活用と公共施設の再編をどちらも考えればいいのではないかと。来年には市長選挙があり、今後4年間の公約を掲げる必要が候補者にはある。方向性を決定していくにあたり、様々な意見があったということをつまびらかにして進めていくべきである。

(炭谷座長)

- ・論点を絞って話しを進めなければいけないと考えている。

(〇〇委員)

- ・公共施設を建て替える議論なのか、まちづくりについての議論なのかははっきりしない。公共施設を建て替える議論であれば、順次建替えていくという話があるべきではないだろうか。駅前周辺への建て替えの話が出ているのは、駅前に広大な無料の土地が降ってくるからである。しかし、いつその土地が手に入るか分からないため、計画を立てることは難しいのではないかと。公共施設の立地にまちづくりが関係あるのだろうか。文化イベントやスポーツイベントを行っても人は集まらない。その為、まずは市役所を作る方が先ではないかとも思っている。砂川の地域交流センターは駅直結の施設であるが、留萌は旧駅の跡地に建設することになる。その為、まちづくりの中心にはならないのではという気がする。公民館のロビーには中高生が多くいる。それは無料で座れる場所があるためであるが、そのような機能は重要だと感じている。公共施設が絶対駅前でなければならないということにはならないのではないかと。

(炭谷座長)

- ・果たして公共施設が、憩いの場として機能しているのだろうか。ただ公共施設を移すという議論ではなく、市民に愛される施設であるか否かが重要である。

(〇〇委員)

- ・より多くの委員の意見を聞いて集約してほしい。駅前周辺ということが決まったとあたかも見えることが問題ではないだろうか。

(炭谷座長)

- ・方向性としては、駅前周辺地区でいいのではないかと認識している。前回会議で決まった方向性を再び蒸し返し、再度場所の問題を考え直す必要性はあるのだろうか。

(〇〇委員)

- ・過去の箱物政策を振り返るべきである。今までの市の作った公共施設はことごとく失敗している。だからこそ今回は重要である。個人的には、公共施設と町づくりはリンクすると考えている。

(炭谷座長)

- ・以前のことは当然教訓として、本検討会議内でもワークショップを重ねて、決定していきたいと考えている。

(〇〇委員)

- ・検討会議全体の流れ、また、ワークショップ・アンケートの時期を明確に示してほしい。また、何を答えとして出したいのか、論点を明確にしてほしい。駅前周辺がいいのか、はたまた場所は関係なく、施設機能中心に検討するのか。アンケートの結果も含めて、検討会議のゴールを限られたタイムスケジュールの中で決めていければよいのではないかな。

(事務局)

- ・スケジュールとしては、今年度末に方針をまとめていきたい。街中に公共施設がある意義等も含めて検討していただきたい。

(〇〇委員)

- ・年度内ではなく、年内に方向性が見えるように検討していく方がよいのではないかな。

(炭谷座長)

- ・方向性については令和2年度の検討会議で、駅前周辺地区を候補地と決めている。当然今後有効な意見があれば再検討するが。出席者の皆さんに理解頂いているという認識である。

(〇〇委員)

- ・本検討会議の認識が社会教育施設の建替えで集まったと思っている委員や、盛り込む施設機能を決める会議だと思っている人もいる。もう1度検討会議の意義をはっきりさせるためにも、今後の検討会議のスケジュールを示すべきである。

(炭谷座長)

- ・繰り返しとなるが、駅前周辺地区が候補地である前提で話す。次回検討会議ではテーマを絞り駅前周辺地区の賑わい再生や、まちづくりの視点と関連して、どのような機能が必要かを議論していきたいと考えている。開かれた公共施設とは何なのかを考えたいうえで検討会議に参加していただきたい。そして検討会議内のグループで意見を発表していただきたい。検討会議にて、委員同士で十分に検討した後に、ワークショップやアンケートを実施し、その結果も踏まえて方針を決めていきたい。

(〇〇委員)

- ・座長の発言が多いと思う。前回までの検討会議で決まってきたものも、最初に戻ってしまっている。公共施設の在り方と、場所の話は別だったと覚えている。今の議論を続けていては、いつまでも施設機能の検討段階へと進むことができない。今回の検討会議より、施設内容のみにしぼって議論していくものだと認識していた。

(〇〇委員)

- ・賑わいや、開かれた公共施設などの言葉は抽象的である。場所に対する議論ではなく、検討会議毎にテーマを絞って開催するべきである。締め切りを設け、議論を行わなければ話が進んでいかないのではないかな。

(〇〇委員)

- ・先ほどの発言は、設置要綱第1条を再確認しただけである。第1条に記されている通り、本検討会議は公共施設の整備について検討する会議である。まちづくり検討会議ではない。当然まちづくりと公共施設整備については関係があることは認識している。しかし、一番は公共施設再編の話をするべきである。場所にはこだわらずに、機能をどんどん決めていくことが必要ではないだろうか。

(炭谷座長)

- ・まさに、本検討会議の出発点は公共施設の整備についてである。施設利用者の視点からどこが望ましいのか、どんな機能が必要であるかを決めていきたい。

(小篠准教授)

- ・令和2年度の検討会議に出席していないため、責任を持った発言はできないが、伊端委員が、今までの留萌市の政策を反省した方がいいのではと発言されていた。当然公共施設の整備については、都市計画とリンクさせる必要があるが、今まではそこができていない。そこも踏まえての議論をするか否かが重要である。公共施設整備のみを検討するべきなのか。私は、過去を振り返り、反省しどんな施設をどこへ建てればいいのかを決めるべきなのが本検討会議の意義ではないかと感じている。人口が激減していく中で、昭和時代に建設した公共施設が老朽化している。私は従来通りの公共施設の整備はナンセンスではないかと考えている。たくさんのお金をかけて整備していくのだから、住みよい街を作っていくためにはどうすればいいのかを決めていくべきではないだろうか。まずは、この検討会議がどのような立場で議論していくのかを決めるべきである。

(炭谷座長)

- ・ただ公共施設を作ればいいのかではなく、町づくりからの視点をもって、公共施設の整備を行うべきではないか。小篠先生の話の通り、どちらの進め方にするかを考える必要がある。

(事務局)

- ・次回以降の検討会議の論点の絞り方を検討する。駅跡地に社会教育施設を持っていきたいという考え方が根底にあったが、この考えは過去の箱物政策を振り返らずに導きだした方針だったかもしれない。総合計画の中でもまちづくりと公共施設という視点は持っている。中心部に公共施設を立地させる。ということも含めて進めていきたい。

(〇〇委員)

- ・事務局の意見を了承するが、その為には検討会議の資料を早めに配布すべきである。

(事務局)

・承知した。次回検討会議資料については、早期配布できるよう準備を行う。

(〇〇委員)

・本検討会議の議事録はあるのか。

(事務局)

・議事録を作成し各委員へ郵送している。

(〇〇委員)

・駅前周辺という言葉を使わずに議論を行った方が議論が進むのではないか。

(事務局)

・議論がうまく進むよう、方法を検討したい。

## (2)次回会議の協議内容について

－質疑・意見確認

(1) 令和3年度検討会議の進め方について、にて議論したため、特になし。

## 5. その他

－特になし。

## 6. 閉会